

- 「心ある機械たち again」開催!
- U35遠藤章子展 開催!
- AIR 2019 again OPEN STUDIO開催!
- 図書コーナー、カフェ、ショップオープン!
- ART BOOK / ART GOODS
- 松本倫子展「ニューヨークに銭湯」

BankART NEWS Vol.16

発行: BankART1929
2019年11月18日発行

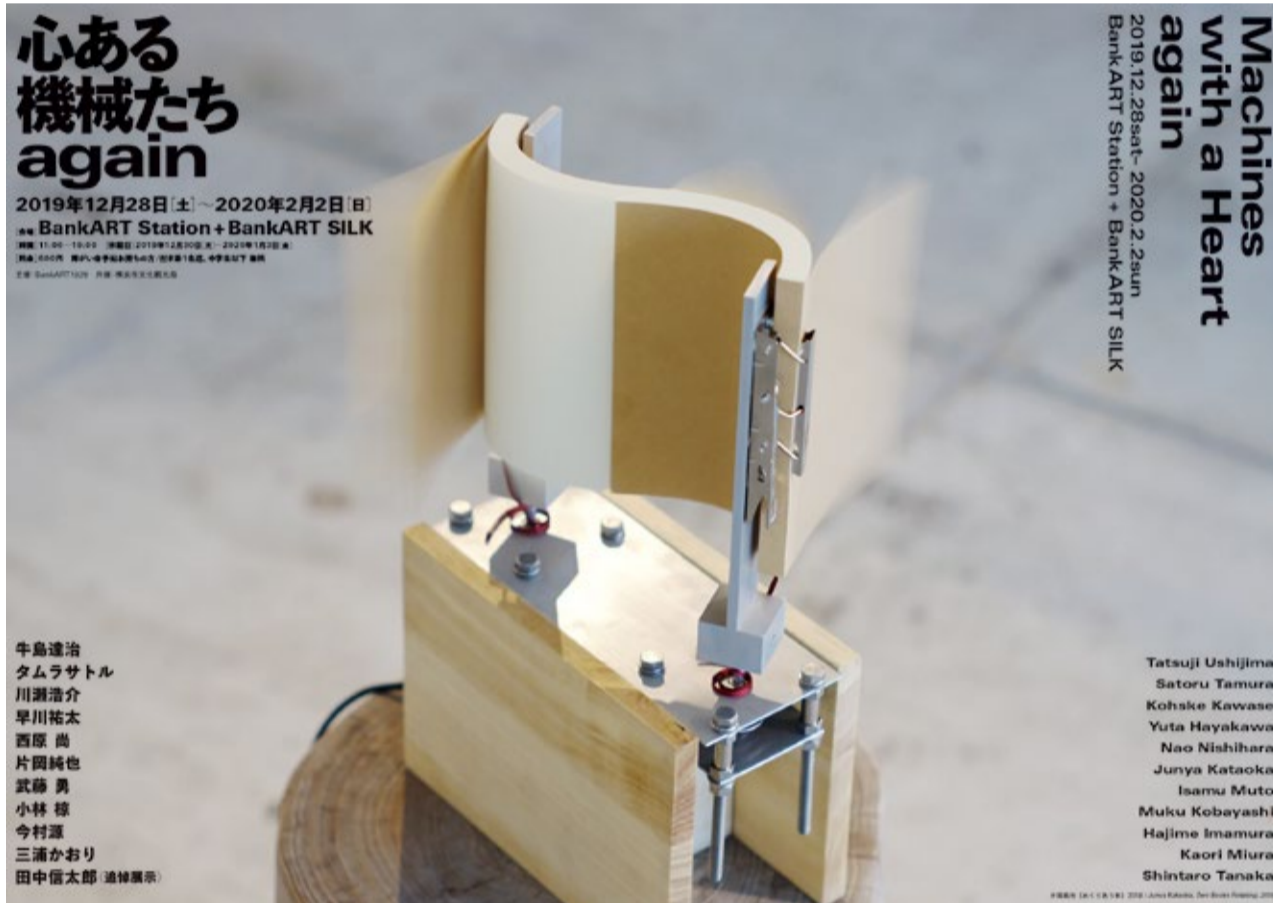
「心ある機械たち again」開催!

2019.12.28.sat. - 2020.2.2.sun. [会場] BankART Station + BankART SILK

[時間] 11:00-19:00 [料金] 600円(障がい者手帖お持ちの方/付き添い1名迄、中学生以下 無料) ※休館日: 2019年12月30日[月]~2020年1月3日[金]
[参加作家] 牛島達治、タムラサトル、川瀬浩介、早川祐太、西原 尚、片岡純也、武藤 勇、小林 椋、今村 源、三浦かおり、田中信太郎(追悼展示)

2008年にBankART1929で開催した「心ある機械たち」。あれから10余年を経て、「心ある機械たち again」を企画してみました。基本的に役に立たないけれど、常に黙々と働いていて、どこかやさしく、そこにいても邪魔にならない、でも何か気になる、そんな運動体の展覧会。再登場の作家もいますが、基本的に初登場の作品群です。新規の作家にもご参加いただきました。当時から比べると、コンピュータやiPhoneが、ごく身近な存在になってきましたが、決してテクノロジーだけで

全てをカバーできる時代になったわけではありません。むしろ、こういった時代だからこそ、コミュニケーションにおいて、穏やかさや配慮、丁寧さが、必要とされるのでしょ。「機械」と接する時間が圧倒的に増えた時代に、今回登場する「でくのぼうたち」はどういった表情を見せてくれるのでしょうか? 尚、前回出品いただき、今年8月に亡くなられたネオダダ出身の田中信太郎氏の作品「ハートのモビール」の小品を追悼展示させていただきます。



BankART under35

遠藤章子展「肌理とアモルフォス」開催!

ガラスは「固体」ではない。固体とは、分子が規則正しく並んだ構造をとる結晶のこと。しかし、ガラスの内部は分子がランダムにつまった構造であり、実は「動きが凍結した液体」なのだ。遠藤章子氏の初期のガラス作品はガラスが本来もつこうしたアモルフォス構造の自由さを想起するものではない。むしろ、ミニマルな形態とデリケートな角の処理や穏やかな表面処理によって見る人の襟を正し、やさしい気持ちにさせる。制御された丁寧な技法は肌理の細かい静謐な表情を生み出している。最近、その表現が大きな変化を見せている。有機的で触覚的な表現へと移行しているのだ。ガラス作品を「みる」という対象から、「手でもち、触れる」こと、すなわち温度や肌(肌理)を感じさせる存在へと変換させている。遠藤氏は、もともと用の伴う工芸的な作家ではないが、ここにきて「ふれる」という、ある意味では「用のある」表現へと変わってきている。身体的な感覚を援用しながら、ガラスの本質であるアモルフォス構造を封じ込め、個体と液体を往来する「動きが凍結した液体」に近づこうとしているのかもしれない。今回はunder35シリーズ第二弾として、初期作品からミニマルな作品、記憶や身体感覚をモチーフにした最近の作品など、これまでの作品が一堂に会した展覧会を開催する。



会期: 2019年11月29日[金]~12月22日[日] (会期中無休) 開館時間: 11:00~19:00 会場: BankART SILK 入場料: 無料
オープニング: 12月6日[金] 18:30~20:00 作品集: A5版/80p /ハードカバー/テキスト: 金子賢治(茨城県陶芸美術館長)

BankART AIR 2019 again+R16 OPEN STUDIO開催!



通常のシーズンとはことなる日程で行ったAIR 2019 againのオープンスタジオを開催します。R16のオープンも併催しますが、日程が異なるのでご注意願います。

■BankART AIR 2019 again OPEN STUDIO
2019年12月13日[金]~21日[土] 11:00-19:00 (21日[土]は15時まで)
会場: BankART Station 入場無料
オープニング: 12月13日[金] 19:00~ @BankART Station

□BankART Station [13組] 富田紀子/朝倉小冬深/佐藤悦子/チーム・ソラ [team SKY] (関 和明、中島 修、韓 卿浩、小川貴之、足立真輝、久山幸成、田島隆志)/宮本廉太郎/堀江和真/樋口昌美/斎藤雄也/Qiao Wanwan/リン・チャーチル×おどるなつこ×宮森敬子/久保萌菜/黒田英美/西山功一

■R16 OPEN STUDIO
2019年12月13日[金]+14日[土]+15日[日]+20日[金]+21日[土] 11:00-19:00
会場: R16スタジオ 入場無料
クロージング: 12月21日[金] 17:00~ @ R16スタジオ

□R16スタジオ [8組] 渡邊麻紀子/似て非 works/テラダケイゴ/土屋信子/渡辺 篤/関 直美/細淵太麻紀/安田拓郎

■BankART AIR 2019 again アーティストトーク
計5回: 11月9日、16日、23日、12月7日、14日 19:00~20:30
会場: BankART Station 参加費: ワンドリンクオーダー (350円)

YOKOHAMA AIR ACT /BankART shcool 出張編 「金沢区とみなとみらい」

横浜市のみなとみらい地区と古都鎌倉に位置する金沢区が、深いつながりがあることを皆さんご存知でしょうか? ランドマークタワーを中心としたみなとみらい地区の再生には、金沢区への工場と団地の移転という巨大なプログラムが横たわっています。シーサイドラインは、その海岸を繋ぐインフラとして整備されました。今回は金沢区をテーマに、都心部の2チームが、中心部を飛び出してプログラムを行います。「BankART1929」は、日頃行っているBankARTスクールの出張編として、金沢区とみなとみらいとを往来するプログラムを開催致します。

- 11月20日 [水] 19:30~21:00 BankART Station 「みなとみらいの誕生-中区と金沢区との関係をテーマに」 恵良隆二
 - 11月30日 [土] 16:30~18:00 横浜市大いちょうの館多目的ホール 「六大事業はどう構想されたか」 鈴木伸治
 - 12月19日 [木] 19:30~21:00 BankART Station 「旧市街地とみなとみらい」 金子勝雄
 - 1月11日 [土] 15:00~16:30 並木ラボ 「金沢シーサイドタウンと 都心部強化事業」 遠藤包嗣
 - 1月25日 [土] 14:00~16:00 金沢区 (未定) 「鎌倉と金沢」 今井信二
- [定員] 申し込み制 約20名 (原則として全回参加)。単発参加もあり
[参加費] レギュラー参加: 無料 (原則として全回参加できる方) 単発参加: 500円/回
[お申込み方法] ①お名前 ②ご住所 ③電話番号、メールアドレスのどちらか。
*申し込み受付は、定員になり次第、終了させていただきます。
[お申し込み・お問合せ] school@bankart1929.com / 045-663-2812

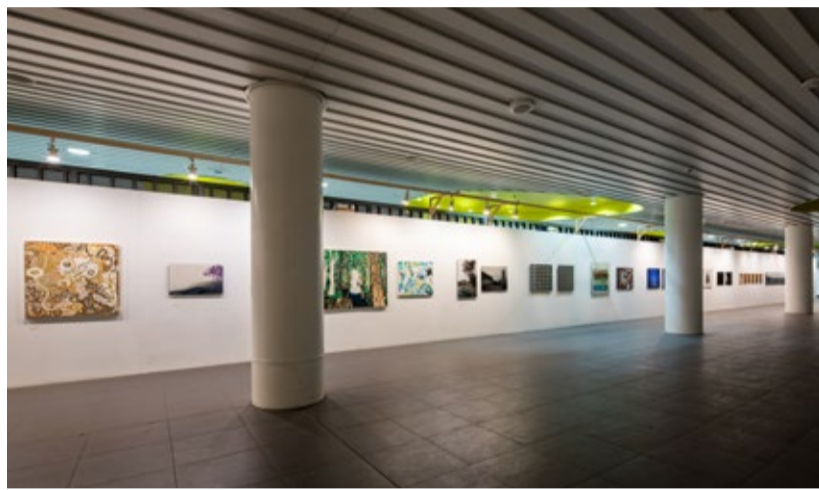
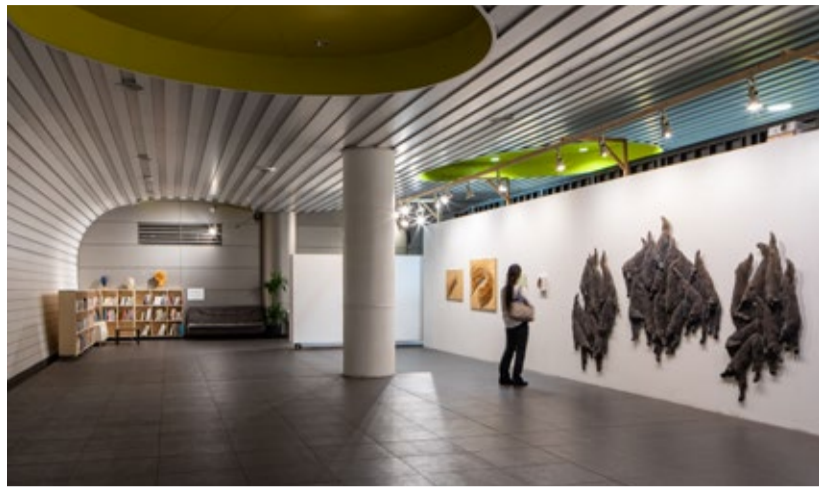
「北沢猛 没10周年記念イベント」

ヨコハマ創造都市構想、BankART1929の生みの親、アーバンデザイナーの北沢猛がなくなつてはや10年。これまでの歩みを振り返り、これからのことを考える集まりが開催されます。

主催: 北沢猛に都市の未来を語る会 実行委員会
日時: 2019年12月22日 [日] 16:30~18:30 (16時開場)
場所: BankART Station 料金無料
懇親会: 18:30~開催 (会費制3,000円・要事前申込み)
懇親会に参加ご希望の方は talk.to.kitazawatakeru.1222@gmail.com宛にご所属とお名前をお知らせください。(※切12月8日 [日])

BankART Stationに図書コーナー、カフェ、ショップオープン!

BankART Stationにも「カフェ」と「ブック/グッズショップ」、加えて、外通路にもちょっとした「図書コーナー」が誕生した。まだ書籍数も少なく、カフェの営業時間も短い暫定オープンだが、一般市民に対する窓口的な空間が生まれたことは喜ばしい。今年の冬にオープンしたときには、あるイベント開催が押している、空調工事やオープンすること等を優先させていたので、こうしたユーティリティーは未着工だったが、ここに来て本来必要だった基本の空間が出そろった。とはいえ、新高島駅周辺は、街中が巨大な工事中だらけの未完の領域。「こんな場所にこんなものがあるの?」的なまだまだ知られていない「BankART Station」。これからも、このみつの機能を全開しながら、新参者としての丁寧な元気な立ち居振る舞いを行ってきたい。(2019年10月24日ブログより)



ART BOOK / ART GOODS @BankART Station 2019.7.5 ~ 7.21

作家、クリエイター、ギャラリーなどから、書籍や作品を提供してもらい展示販売するプログラムだ。約200人、1000点の作品が集まり、初日早々、既に十以上の作品が売れた。これまでも、映像や書籍では、こういった販売も行う催しは行ったことがあるが、美術作品も含むものは、今回がBankARTとしてははじめてだ。今後こういった催しを続けるかどうかは未定だが、ものがうれるというのは、やはり単純に嬉しくなるもんだという実感をもつことができた。私たちの仕事のひとつ、創造界隈の形成はクリエイターの誘致でとまってはいけない。クリエイ

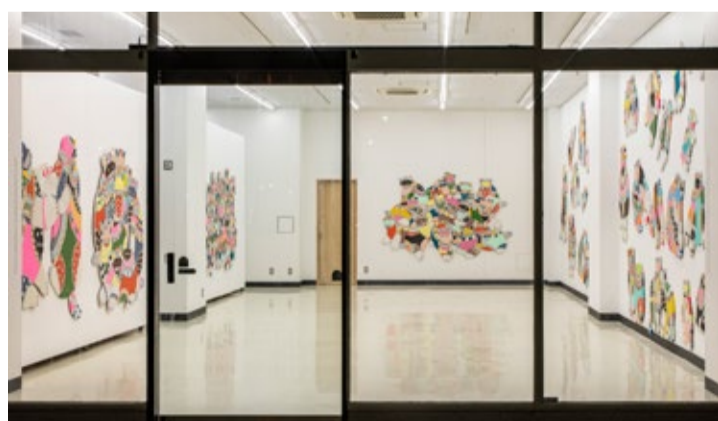
ターが、ここで食べていけるような構造をつくることだ。これまで販売行為を控えていたのは、ギャラリーの邪魔をしてはいけないと考えてきたからだが、16年を経過して(まってみて)、ものをつくる人は多いけどものを売る人(ものを買う人)は増えていないという現実にはさらされている。アーティストがものをつくりつづけていくためにも私たちは、作品(商品)を売って、流通させていかなければならない。売るのが備わっているとは思えない私たちが、禁断の果実のプログラムに着手することになったのはこうした由縁である。(2019年7月5日ブログより)



松本倫子展 「ニューヨークに銭湯」開催

@BankART SILK 2019.9.27 ~ 10.27

松本倫子氏の「ニューヨークに銭湯」が始まった。彼女がしゃれでつけたタイトルだが、本人は本気で、ニューヨークの銭湯を自身の作品で埋め尽くしたと夢見ているようだ。この兆し、実をいうと現在でもあり、大磯の古い平屋の家は、既に彼女の世界であふれている。ふすまなど、家のいくつかの部位に絵をどんどん描き始めている。まるで小さな子供がよくやるように、自分の世界をこぞとばかり夢中になって繰り広げている。これまでの一日一枚というペースは、一日一平方メートルというペースになり、一年たつと365平米のお風呂として建築クラスの空間も埋め尽くしてしまうかもしれない。最近地方都市でも頻繁におこなわれるようになった現代美術祭等で、古い銭湯などを誰かが提供してくれないか密かに願っている。(2019年9月27日ブログより)

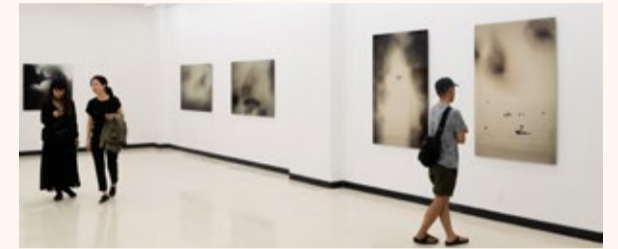


under35 藤本 涼

「クラウドフォーカスの行方」展開催

@BankART SILK 2019.6.14 ~ 7.15

藤本涼の展覧会がスタート。Under35のシリーズの35人目の作家である。彼は今年ちょうど35才になる。作品内容は、芸大時代から、現在迄のアーカイブ。BankART SILKのガラス空間に美しく映える。印刷物は、これまでは軽量のパンフレットだったが、今回はハードカバー80頁でちょっと豪華。いつもは、販売は行わないが、本展覧会では販売にもトライしてみようと考えている。(2019年6月14日ブログより)



BankART school [2019年7-9月期] より

今福龍太「夜、瓦礫、屑の叛乱」

@BankART Home 2019年7月22日

この講座では、今福氏の新著『小さな夜をこえて』(水声社)をテキストとし、1960年代末~70年代にかけて、アートと学問の境界を越えて花開いた「芸術的(知)の連動」の諸相を、今福氏と深く交流のあった多木浩二、東松照明、山口昌男、高橋悠治、吉増剛造の5人の人物における「思想」「写真」「音楽」「詩」の領域侵犯的な交差として語っていただいた。

多木浩二氏の回では、多木氏の主著であり、最近復刊された「生きられた家」をもとに。今福氏が執筆した復刊本の解説では、過去の5つのバージョンからなる「生きられた家」の改稿の変遷をたどり、多木の思考の軌跡を探った。同じく、多木の敬愛するヴァルター・ベンヤミンの「1900年頃のベルリンの幼年時代」も初稿から最終稿まで7つの稿があり、多木は晩年、その改稿の変遷の読み解きも含めたこの本の解釈本の執筆を構想していた。

「生きられた家」と「1900年頃のベルリンの幼年時代」はどちらも時代的な重層性をもったテキストである。読むということは、読み手に様々な傷をあてるものであり、本質的な書物はそういったものを読み手に突きつける。だからこそ作者は、自己の中にある傷のようなものを新たなテキストによって迂回しようと、都度対話をし、改稿し続けてきた。これらは生き続けていくテキストであり、生きられた本といえるのではないだろうか。

編集後記

○夏が過ぎ、秋がきたような、こないような。高層ビルの風は既に痛く、そんな季節がやってきた。今年の冬2月にオープンしたBankART Stationも少しは落ち着き始め、近隣の日本を代表する企業とも挨拶ができるようになってきた。それにしても一年にも満たないのに随分時間が過ぎてしまったように思える。

○BankARTスクール「ヨコハマみなどみらい物語」のゲストが未定だったが、徐々に決まりは始めている。11/5が大石龍巳(横浜高速鉄道部長)、11/12が、小正和彦(横浜みなどみらい本町小学校校長)と設計を担当した加茂紀和子(みかんぐみ)、11/26、第二代横浜駅のことを西川武臣(横浜開港資料館長)、12/10は、みなどみらいのグランドデザインを恵良隆二(横浜市芸術文化振興財団事務局長/元三菱地所株式会社)氏に。そのあとも、横浜市経済局、都市整備局のOBや、日産や資生堂など、この地区を構成する企業の担当者が続く予定。

○遠藤章子さんの展覧会、AIRのオープンスタジオ、心ある機械たちagain等、展覧会が続く。分散している4つのスペースの構造をうまくいかしながら、動員を図ってきたい。

アクセス

- BankART Station(横浜市西区みなとみらい5-1)
みなとみらい線「新高島駅」地下1階
- BankART SILK(横浜市中区山下町1シルクセンター1F)
みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩3分
- BankART Home(横浜市中区相生町3-61 泰生ビル1F)
みなとみらい線「馬車道駅」徒歩5分/11時~23時/日曜定休

お問い合わせ | BankART1929

TEL: 045-663-2812 E-mail: info@bankart1929.com

www.bankart1929.com